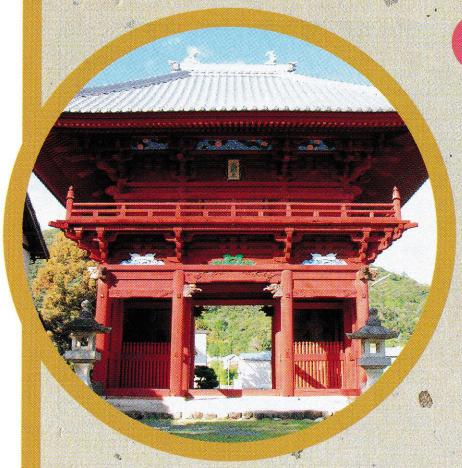
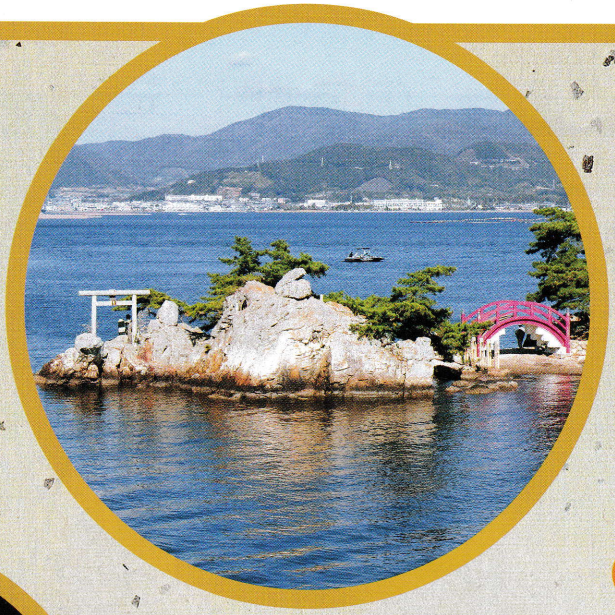










三ヶ日町の史跡

みっかびちょうのしせき





協力◎三ヶ日町郷土を語る会・浜松市北区三ヶ日地域自治センター
発行◎三ヶ日町観光協会
〒431-1414 静岡県浜松市北区三ヶ日町三ヶ日500-21 TEL.053-524-1124

三ヶ日

① 濱名惣社神明宮本殿 C-2

天照大神をまつる神社。本殿は全国でもめずらしい板倉づくり（井籠づくり）といわれる古い建物で、国の重要文化財です。



浜名惣社神明宮

② 金剛寺 C-2

1353年に天台宗の寺として建てられ、1442年の火事のあと、曹洞宗の寺となりました。

③ 殿畑遺跡 C-2

西町で確認された遺跡です。縄文時代から弥生時代に移る時期の土器、弥生時代初めごろの石器や土器などが発見されています。

④ 璽田稲荷神社［稲荷山］ C-2

江戸時代に建てられた璽田稲荷神社は、大輪山の中腹にあります。この山を神社名にちなんで、稲荷山と呼んでいます。護国神社や三ヶ日みかんの三大恩人（山田弥右衛門、加藤権兵衛、中川宗太郎）の碑などがあります。

⑤ 三日池 C-2

昔、この村の長者が魚をとろうとして、三日間にわたって池の水をかえようとしましたが、水を干すことができませんでした。そのため、この池を三日池、長者を三日長者、村を三ヶ日村と呼ぶようになったそうです。

⑥ 三ヶ日一里塚跡 C-2

江戸日本橋から71里目（約284km）の一里塚跡です。

⑦ 姫街道三ヶ日宿本陣跡 C-2

江戸時代に身分の高い人たちが泊まった宿屋の跡です。伊能忠敬も、ここに泊まりました。

⑧ 姫街道三ヶ日宿伝馬問屋跡 C-2

江戸時代の通行に使われた馬などを用意しておいた所といわれています。

宇志

⑨ 宇志北大里遺跡［旧名：瓦塔遺跡］ D-2

平安時代初めに瓦で建てられた五重塔の跡。ここから出土した破片をもとに復元された塔は奈良国立博物館にあります。現地には瓦で作られた実物大のレプリカ（複製）があります。



宇志北大里遺跡

⑩ 片山竹茂墓 C-2

宇志共同墓地内にあり、六角柱の墓柱に十一の俳句が刻まれています。竹茂は宇志八幡宮六代目宮司でした。

⑪ 宇志八幡宮 C-3

この八幡宮には、雨ごいの儀式に使われたといわれるお面があり、この儀式を行うと必ず雨が降るかわりに、わざわいも起こったと伝えられています。

⑫ 利正院 C-3

1380年に浜名利正が建てた屋敷（堂崎居館）の中の寺で、境内の阿弥陀堂の本尊の胎内には、君が代の歌の書物があります。

津々崎

⑬ 沖の瀬御殿跡 C-3

津々崎弁天の沖に沈んでいる、伝説の御殿跡。昔、長者が病気にかかった娘のために、湖のほとりに御殿を建てましたが、娘は死に、御殿も地震で沈んだと伝えられています。

⑭ 大明神山と行者岩 D-3

大明神山は、徳川軍が浜名城をせめるときに陣地にした場所。行者岩などがあり、村人たちに信仰されています。

岡本

⑮ 初生衣神社 C-2

地元では「おんぞ様」と呼ばれ、遠州織物の大本として尊ばれている神社。古くから初生衣を織って伊勢神宮におさめてきました。境内には古い織殿と織機が残されています。



初生衣神社

⑯ 岡本居館跡 C-2

浜名神戸の役人だった岡本氏の住まいといわれ、堀や砦の跡が残されいます。

摩訶耶

⑰ 摩訶耶寺 C-2

奈良時代に開かれた真言宗の寺で、平安時代に現在の場所に移されました。仏像は国の重要文化財や県の文化財に指定され、鎌倉時代初めに造られたと考えられる庭園などがあります。



摩訶耶寺庭園

⑱ 千頭峯城跡 C-2

南北朝の戦いのときに南朝方の拠点となった城跡。城を中心に数キロにわたって砦や番所が張りめぐらされていましたが、1339年、北朝の軍勢にせめおとされました。

⑲ 阿部三圭屋敷跡 C-2

三圭は摩訶耶で代々医者をつとめた阿部家の生まれで、幕末（江戸時代の終わり）に長崎で医学を学び、吉田藩（豊橋）の医者になりました。

只木

⑳ 只木神明宮 D-1

昔は弥和山神社とも呼ばれていた古いお宮で、現在は只木神明宮といい、伊勢神宮からいただいた木材で建てた立派な社殿があります。ここには、市指定文化財の懸佛があります。

㉑ 只木遺跡 D-2

1958～1960年にかけて発見された、旧石器時代の約2万年前の人間の骨が動物の骨といっしょに発見されたところです。しかし、その後の再調査により、人間の骨は縄文時代のものという説が発表されています。



只木遺跡

㉒ 公家塚 D-1

南北朝時代に南軍の千頭峯城がせめおとされたとき、逃げる途中で北軍に見つかって殺された、南朝方の皇子と家来のものと言われる墓です。

㉓ 幡教寺遺跡 D-1

幡教寺は、現在の大福寺になる前の寺。875年に富幕山に建てられ、1207年に現在の場所に移されました。土台の石や池などが残されています。

大福寺

㉔ 大福寺 C-1



大福寺山門

真言宗の寺で、富幕山の幡教寺を、ここに移してから大福寺というようになりました。寺内の宝物館にはたくさんの重要文化財が保存・展示され、すばらしい庭園もあります。大福寺納豆は有名で、鎌倉時代から江戸時代にかけて、将軍にさし上げたという歴史をもっています。

平山

㉕ 山田弥右衛門の墓［通称：弥太夫］ B-2

江戸時代の中ごろに紀州（和歌山県）からみかんの苗を持ち帰って庭に植えた人。これが三ヶ日みかんの始まりといわれています。

㉖ 加藤権兵衛の墓 B-2

江戸時代の終わりごろに三河吉良（愛知県）から初めて温州みかんの苗木を購入し、植えた人。山田弥右衛門とともに三ヶ日みかんの恩人といわれます。

㉗ 不動の滝 B-2

伊雑皇神社の境内にある滝です。滝のそばの洞穴には、不動明王がまつられています。

㉘ 才の神の祠と清水善慶の碑 B-1

宇利峠のふもとは、才の神とよばれています。悪い病気が峠を越して村に入ってこないように神様をまつってあるのです。宇利峠を私費で改修した清水善慶をたたえる石碑がたっています。

㉙ 凌苔庵跡 B-1

応仁の乱（1467～1479年）を避けて、京都の高僧・悟渓禅師が住んでいた所。

釣

㉚ 西山古墳 B-2

7世紀の円墳（丸い形の古墳）で、直径14.5m、高さ4.5m。天井の石が失われていて、そこから玄室（棺をおさめた場所）に入ることができます。

㉛ 銅鐸［荒神山出土］ B-2

1838年（江戸時代の終りごろ）、釣村の村人が発見した銅鐸（古代のまつりごとなどに使われたと考えられる道具）。一つは東京国立博物館、もう一つは奈良国立博物館に保管されています。民俗資料室にレプリカが展示されています。

㉜ 銅鐸［釣山田出土］ B-2

1950年、みかん畑の開墾中に発掘された銅鐸。現在は東京国立博物館に保管され、民俗資料室にレプリカが展示されています。

㊷ 浅間山とまんさく群落 C-3



乎那の峯

乎那の峯は、万葉集に『花散らふこの向つ峯の乎那の峯の洲につくまで君が齢もがも』と、よまれた景色のよい場所で、マンサクの群落（県天然記念物）や三ヶ日桜の原木があります。

上尾奈

㊸ 王瀧不動 A-3

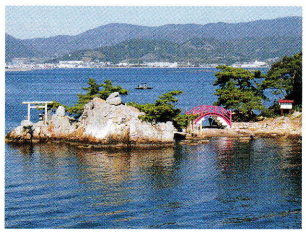
よぼし岳のふもとにあり、滝のかたわらに不動明王がまつられています。

㊹ 玉洞寺のサザンカ B-3

玉洞寺の境内にあり、幹周1.4m樹高6.6mで、樹齢が約300年と推定されている。

下尾奈

㊺ 猪鼻湖神社 C-4



猪鼻湖神社

猪鼻湖入口の、猪の鼻の形をした岩の上にある小さな祠が猪鼻湖神社です。

㊻ 本城山 C-4

千頭峯城（摩訶耶）南方の前線基地だったと考えられます。今も空堀や井戸の跡などが残っています。

大崎

㊼ 礫島 C-4

浜名湖に浮かぶ島で、大男ダイダラボッチにまつわる伝説が伝えられています。江戸時代の初め（1617年）に造られた礫石神社があり、7月の祭りには船屋台が出ます。

㊽ 大矢金太夫の屋敷跡 C-4

佐久城が徳川家康にせめられたとき、城から徳川方の陣地大明神山まで矢を放ったとの言い伝えで有名な、大矢金太夫の屋敷あとです。

㊾ 法幢院 C-4

室町時代（1462年）に開かれた寺。境内の阿弥陀堂は、明治の初めに大崎西平から移したものです。参道のそばに寺倉貝塚があります。

㊿ 宇塚山貝塚 C-4

宇塚山の北のふもと4ヵ所に散らばっている貝塚。石斧や土器などが出土しています。

都筑

51 佐久城跡 D-3



佐久城跡

浜名城とも呼ばれた城の跡。1348年に築かれ、1569年に徳川家康によってせめおとされるまで、約210年間にわたってこの地を支配した浜名氏の城です。

52 太幸寺 D-3

幕末の住職・道榮は、荒地を耕して甘藷・西瓜を植え、この地域で栽培を広めた。愛宕山奥の行者岩に彫刻してあった十三仏が庭にまつられています。

㉝ 開南組農場跡 B-2

1918年に開かれた農場。この農場の技師・中川宗太郎の技術指導で、三ヶ日みかんが発展しました。三ヶ日みかん三大恩人の一人に数えられています。

御薗

㉞ 神宮寺 C-2

神仏習合の名残の寺で、江戸時代には東心寺といわれました。現在は真言宗の寺で住職はいません。

日比沢

㉟ 日比沢城跡 B-2

浜名氏につかえた後藤家の城跡。1569年に徳川家康が浜名氏を滅ぼしたとき、この城も徳川方に明けわたされました。城の下にあった大きなクスノキは1890年に切りたおされ、そのあとに楠神社が建てられています。

㊱ 華蔵寺 B-2

もと真言宗の寺で、のちに曹洞宗の寺となりました。25年ごとに大日堂が開かれ、釈迦如来・大日如来・阿弥陀如来の三尊を見ることができます。

㊲ 銅鐸［猪久保出土］ B-2

1965年に、高さ95cmの銅鐸が発掘されました。現在は民俗資料室で保管展示されています。



銅鐸

本坂

㊳ 伝橘逸勢墓 A-3

平安時代の三筆の一人、橘逸勢が謀反の罪をきせられて京都から伊豆へ流される途中、この地で病死したといわれています。逸勢の娘、妙は尼になって、亡くなった父のためにお祈りをしました。境内には逸勢の霊をまつった墓や、妙沖尼の孝行をたたえる旌考碑が建てられています。



橘神社

㊴ 本坂峠 A-3

姫街道でいちばんの難所といわれた場所には鏡岩や椿の原生林などがあります。1915年に新道（現在の旧国道362号）と隧道（トンネル）が開通してからは通行が楽になりました。本坂隧道は登録有形文化財となる予定です。

㊵ 本坂一里塚跡 B-2

江戸日本橋より72里目（約288km）の一里塚。南側の塚は復元されたものですが、北側のものはほぼ昔のままで残っています。塚の前には馬頭観音が建てられています。

鶴代

㊶ 隣海院 C-3

曹洞宗の寺。境内には阿弥陀堂や薬師堂があります。薬師堂では、毎年11月に子供たち（小学生男子）で薬師如来をおまつりする珍しい行事があります。

㊸ 広福寺 D-3

1470年に開かれた寺。明治維新のころの住職・器外和尚のもとには、おおぜいの子弟が集まって学んだといわれています。

㊹ 野地城跡 D-3

1583年に徳川家康の家来によって築かれ、その後100年間にわたって守られた城のあと。城の中に神明宮がまつられていたことから、宮崎城とも呼ばれました。

㊺ 都筑神社 D-3

愛宕神社と熱田神社、野地城にあった神明宮を一つにして、1970年に都筑神社となりました。

㊻ 愛宕平古墳 E-3

愛宕平には火塚（古墳）がたくさんあったため、火塚平とも呼ばれました。今は、頂上から南のふもとまで10m、西のふもとまで7m、高さ6mの横穴式円墳1個だけが残されています。

駒場

㊼ 慈眼寺庚申堂 D-3

慈眼寺は曹洞宗の寺で、明治の初めに火事で焼けてから、住職はいません。そのときに庚申堂も焼け落ちて、のちに佐久米海岸にあった阿弥陀堂を移しました。今の庚申堂の天井には、美しい色彩の花鳥画が画かれています。未年ごとにご本尊は開帳されます。

㊽ 安形伊賀守屋敷跡 D-3

1㎡ほどの石積みの上に墓が建っているこの場所は、土地の人に「伊賀堂」と呼ばれ、伊賀守正道の屋敷あとと伝えられてます。

大谷

㊾ 旗本大谷近藤家陣屋跡と代官屋敷 D-3

近藤家陣屋のあった場所は現在みかん園で、古井戸の跡だけが残っています。江戸時代初めから200年以上にわたって、ここが三ヶ日町北部の政治の中心地でした。江戸にいた近藤氏に代わって領地を支配したのは大野氏で、陣屋の南にその屋敷があります。土地の人々は大野氏をお代官様と呼び、その住まいを代官屋敷と呼びました。



代官屋敷

㊿ 旧高栖寺跡 E-2

最初（1334年）は釜中山に建てられましたが、三代目の玉庵のとき（1543年）、今の場所に移されました。玉庵は備後国（広島県）から藺草を伝えた人です。

(61) 引佐峠 E-3

三ヶ日から細江へと越える峠。姫街道の昔の姿をよく残しています。江戸時代に中国の商人が将軍吉宗に献上する象を江戸に運ぶとき、けわしい道で、象が悲鳴を上げたといわれる「象鳴き坂」などがあります。

(62) 大谷一里塚跡 E-3

江戸日本橋より70里目（約280km）の一里塚あとです。



大谷一里塚

佐久米

(63) 佐久米経塚 E-3

経文を書いたこぶし大の石が多数埋められて、その上に石碑がたててあります。都筑や上尾奈にもこのような経塚があります。



三ヶ日町の史跡

三ヶ日

① 濱名惣社神明宮本殿 国指定所蔵 県指定 C-2

垂仁天皇の御代、倭比売命が神鏡を捧持してしばらく滞留されたとの言い伝えがある式内社。本殿（国指定）は俗に井籠造と称する古式の板倉造である。古来から伊勢神領浜名神戸の貢物保管庫に由来する岡本の初生衣神社との関係が深い。境内おしどり池畔に明治戊辰の役に活躍した報国隊員縣栄雄の頌徳碑がある。8月第1土曜日の例祭に行われる夜半の御餐の神事がある。摂社天羽槌雄神社（県指定）もある。

② 金剛寺 C-2

神亀元年（724）高僧行基が開祖。文和2年（1353）浜名氏の祖清政が再興。当初は住持を近江三井寺の円満院より迎えて天台宗であった。嘉吉2年（1442）の火災後、清政の子孫政義が尾張小川の乾坤院より享陰和尚を迎え、以来曹洞宗となる。現在末寺十余ヶ寺をもつ。

③ 殿畑遺跡 C-2

三ヶ日西町の洪積台地から釣橋川沖積平地に下る一帯の地域。打製・磨製各種の石器とともに、水神平式土器（縄文より弥生へ移行期の特殊土器）及び遠賀川系土器（弥生前期の土器）が出土する貴重な考古遺跡である。

④ 璽田稲荷神社［稲荷山］ C-2

寛政9年（1797）に京都伏見稲荷を勧請した璽田稲荷神社は、大輪山（通称：稲荷山）の一角にある。神社の周囲には明治以来の殉国戦士を祀った護国神社、三ヶ日みかん三大恩人（山田弥右衛門、加藤権兵衛、中川宗太郎）の頌徳碑、童謡「桃太郎」の作詞者田辺友三郎撰文の井口喜四郎先生謝恩の碑や生花・茶道の師、菅沼東甫の碑などがある。

⑤ 三日池 C-2

村の長者が魚をとろうとして人を雇い、三日間水をかえさせたが、かえ干すことができなかった。この池を三日池、長者を三日長者という伝説がある。

⑥ 長者屋敷跡 C-2

三日池の北西の丘陵地帯。三日長者の屋敷跡と思われる石垣をめぐらした浅瀬がある。この地の長者が病弱な娘のために御殿を築造したという伝説がある。

⑭ 大明神山と行者岩 D-3

津々崎切り通し北の山を大明神山という。佐久城攻撃の際、徳川軍の布陣した所である。東西の山腹に“行者岩”“しし神様跡”があり、住人の信仰が厚い。

岡本

⑮ 初生衣神社 市指定 C-2

祭神は棚機姫命。境内に織殿があり、神庫古式の機具一式を所蔵している。上古より毎年三河赤引の糸をもって、和妙の初生衣を織り伊勢神宮に奉献していたが、明治18年（1885）から停止され、昭和43年（1968）奉賛会により奉献が復興した。

⑯ 岡本居館跡 C-2

松下嘉兵衛の城跡との伝説があり、また浜名神戸下司職の居館跡ともいわれている。

摩訶耶

⑰ 摩訶耶寺 国指定所蔵 県指定 C-2

古義真言宗高野山明王院の末寺。はじめ富幕山腹に開創、新達寺と称し、ついで中千頭観音岩附近に移り、眞萱寺と改め、さらに平安末期現在地に移り、摩訶耶寺と称するようになった。

本尊は秘仏聖観音、木造千手観音立像（国指定）、木造不動明王立像（国指定）。木造金剛力士立像（県指定）、木造阿弥陀如来坐像（県指定）などがある。摩訶耶寺庭園（県指定）は東日本には珍しい平安様式を多分にもった鎌倉前期のもので、三尊形式の出島や、すぐれた鶴島をもつ座視観賞式蓬莱庭園である。

⑱ 千頭峯城跡 県指定 C-2

南北朝時代、後醍醐天皇の皇子宗良親

大福寺

㉔ 大福寺 国指定 県指定 市指定所蔵 C-1

古義真言宗高野山明王院の末寺。本尊は理趣仙人作の木造薬師如来坐像（県指定）。

承元元年（1207）明性阿闍梨の時、幡教寺より大中臣朝臣時定の寄進により現在地に移り、大福寺と称するにいたった。寺宝収蔵庫聚古館には、紙本墨書瑠璃山年録残篇（国指定）、絹本著色普賢十羅刹女像（国指定）、金銅装笈（国指定）、木造薬師如来坐像（県指定）など寺宝を多数所蔵展示されている。

山門には鎌倉後期の木造金剛力士立像（市指定）が2軀ある。また客殿西の大福寺庭園（県指定）は、座視観賞式兼回遊式浄土庭園（県指定）で、江戸時代の茶人山田宗偏が好んだという。寺伝の大福寺納豆は、足利、今川、織田、豊臣、徳川各諸侯に献上の歴史をもつ。江戸期三河遠州で活躍した、喜多流能の大家、服部正信・友清父子の墓や、その子孫の寄贈した能面（市指定）も5面ある。

平山

㉕ 山田弥右衛門［通称：弥太夫］ B-2

山田弥太夫は、享保（1716～1736）の頃、西国を巡遊し、紀州那智地方より、みかんの苗木を持ち帰り、庭前に植栽した。これが三ヶ日みかんのはじめという。

㉖ 加藤権兵衛の墓 B-2

加藤権兵衛が天保（1830～1844）の頃に、三河吉良よりはじめて温州みかんの苗木を購入植栽したという。弥太夫とともに三ヶ日みかんの恩人である。

㉗ 不動の滝 B-2

平山の鎮守伊雑皇神社境内にある。滝のかたわらの岩窟内には不動明王が祀られている。

㉘ 才の神の祠と清水善慶の碑 B-1

宇利峠の麓、新城街道の小さな宿場跡で、道祖神の祠があり、才の神と呼ばれている。さらに、その傍らには宇利峠道を私費で拡げた清水善慶の碑があり、明治の俳人松島十

かった。この池を三日池、長者を三日長者といい、長者の住む村を三ヶ日村と呼ぶようになったという。

⑥ 三ヶ日一里塚跡 C-2

江戸日本橋より71里目（約284km）の一里塚跡に石碑がある。

⑦ 姫街道三ヶ日宿本陣跡 C-2

江戸末期の三ヶ日宿本陣跡である。

⑧ 姫街道三ヶ日宿伝馬問屋跡 C-2

三ヶ日宿石川家に倉庫が現存する。

宇志

⑨ 宇志北大里遺跡

［旧名：瓦塔遺跡］ 市指定 D-2

平安時代初期に建立された瓦製の五重塔の遺跡。収集された破片により復元された実物は、奈良国立博物館に展示してあり、現地には実物大の複製瓦塔が建てられている。

⑩ 片山竹茂墓 市指定 C-2

宇志共同墓地内にあり、六角柱の墓柱に辞世の句と十一の追善句が刻まれています。竹茂は宇志八幡宮六代目宮司で高徳の文化人であったが、文化10年（1813）没した。

⑪ 宇志八幡宮 県指定所蔵 C-3

雨乞の面として信仰をうけている能面鉢巻悪尉（県指定）及び、能面父尉（県指定）を所蔵する。貞享5年（1688）以前、神事能に使用されたものと思われる。

⑫ 利正院 市指定所蔵 C-3

康暦2年（1380）浜名小五郎利正が築造し、天正年間（1573～1591）大矢光政の修築した堂崎居館跡でもある。境内にある阿弥陀堂の木造阿弥陀如来坐像（市指定）は天文10年（1541）仏師小島重国の作。胎内に和歌君が代の墨書がある。

津々崎

⑬ 沖の瀬御殿跡 C-3

津々崎弁天の沖数百mの海中に、御殿の

南北朝時代、後醍醐天皇の皇子宗良親王を奉じて奮戦した井伊氏西方の最重要拠点。延元4年（1339）10月北朝方の攻撃にあって落城。曲輪・空掘・土塁などを残している。

⑲ 阿部三圭屋敷跡 C-2

三圭は、摩訶耶において代々医者であった阿部家の玄岑の子。幕末、長崎に遊学して蘭法医学を学び、吉田藩医に抜てきされた。明治生命の創立者阿部泰蔵は娘婿である。

只木

⑳ 只木神明宮 市指定所蔵 D-1

式内社、弥和山神社は、この神明宮であるといわれる。天福元年（1233）及び貞治4年（1365）の銘を有する青銅製の懸仏（市指定）が四面と、籬双雀鏡（市指定）が一面ある。

㉑ 只木遺跡 県指定 D-2

昭和33年～35年（1958～1960）三ヶ日高校高橋祐吉教諭、東大人類学教室鈴木尚教授、同地質学教室高井冬二教授などにより、洪積世（旧石器時代）の人骨7片（頭頂骨、前頭骨、側頭骨、腸骨、大腿骨）と、多数の獣骨（オオツノ鹿、ヒョウ、アオモリ象など）を発見。日本旧石器時代の存在を確証し、また当時の情況（身長矮小、剥片石器使用、食人の風習など）を明らかにした。しかし、その後、再調査により人間の骨は縄文時代のものという説が発表された。

㉒ 公家塚 D-1

塚上に六基の供養塔がある。千頭峯城落城の時、逃走の途中、殺された南朝方皇子主従の墓といわれている。

㉓ 幡教寺跡 市指定 D-1

富幕山山中の浜名湖を見下ろす景勝地にある。大福寺の前身幡教寺が貞観17年（875）教待和尚によって創建されてより、承元元年（1207）明性阿闍梨によって現在地に移されるまでの遺跡で、礎石・池泉・供養塔などを残している。ここより南方に地盤隆起を物語る礫岩も見られる。

㉙ 凌苔庵跡 市指定 B-1

室町時代に妙心寺東海庵を開いた臨済宗の高僧悟渓宗頓禅師が応仁の乱を避けて文明年間（1467～1487）、当地に数年滞留した遺跡である。

釣

㉚ 西山古墳 市指定 B-2

西山古墳群で、ただ一つ残った古墳で、もと火塚ともいわれていた。直径14.5m、高さ4.5m、7世紀の円墳、玄門部の天井石が失われているので、そこより玄室に入ることができる。玄室の長さ3.33m、高さ1.94m。古墳群から出土した土器類は、当時の三ヶ日町に寄附され、現在は民俗資料室に展示してある。

㉛ 銅鐸［荒神山出土］ B-2

天保9年（1838）4月兼子音八・政吉兄弟が発掘した。二口出土し、一口は東京国立博物館、もう一口は奈良国立博物館で所蔵。ともに三遠式銅鐸であるが、前者は高さ72.7cmで文様は一面が袈裟襷文、他面が渦巻文と両面相違しており、後者は高さ57.5cmで、文様は両面とも袈裟襷文である。

㉜ 銅鐸［釣山田出土］ B-2

昭和25年（1950）東天王町の黒柳時太郎が開墾中に発掘したもので、現在は東京国立博物館で所蔵、飾耳をもつ近畿式銅鐸で、高さ96cm、文様は両面袈裟襷文である。

㉝ 開南組農場跡 B-2

大正7年（1918）中川高秀などが三井の出資をうけて開南組みかん園を開いた。開南組みかん園は、戦後の農地解放により、現在は、静岡県農業技術研究所果樹研究センター、小宮山農園などに分割されている。

御薗

㉞ 神宮寺 C-2

神仏習合の名残り。江戸時代には東心寺ともいった。真言宗醍醐派。

日比沢

㉟ 日比沢城跡 B-2

浜名氏に所属した後藤家累代の居城。永禄12年（1569）徳川家康の遠州侵攻に抵抗したが、佐久城とともに徳川方に降り以後廃城となった。現在空堀・土塁の一部をのこしている。城の南崖下に、幹周22mの大楠があったが、明治23年（1890）伐採され、跡に楠神社が建てられている。

三ヶ日町内にある文化財

●国指定（重要文化財）——6

種別	名称	所在地
絵画	絹本著色普賢十羅刹女像	大福寺
工芸	金銅装笈	
書籍	紙本墨書瑠璃山年録残篇	
彫刻	木造千手観音立像	摩訶耶寺
	木造不動明王立像	
建造物	浜名惣社神明宮本殿	浜名惣社神明宮

●県指定——14

●市指定——31



36 華蔵寺 県指定 市指定所蔵 B-2

もと真言宗の寺院。戦国乱世の頃に衰微したのを、金剛寺四世明岩修哲が再興して以来曹洞宗金剛寺の末寺となる。境内大日堂に安置する木造釈迦如来坐像（県指定）・木造大日如来坐像・木造阿弥陀如来坐像（市指定）の三尊は25年毎に数日間開帳している。釣鐘はおぼれる子どもを助けて殉職した住職河西哲英訓導遺族の寄進したものである。

37 銅鐸［猪久保出土］ 県指定 B-2

昭和40年（1965）1月、日比沢鈴木栄雄・正宏父子が発掘したもので、釣山田出土のものと同じく近畿式の銅鐸で高さ96cm、文様は両面とも袈裟襷文である。当時の三ヶ日町に寄附され、現在は民俗資料室に展示してある。

本坂

大崎

47 礫島 C-4

浜名湖内唯一の島で、ダイダラボッチの伝説がある。面積約20a、全島が松などに覆われている。元和3年（1617）、琵琶湖竹生島より勧請した市杵島姫命と弁財天を祀る礫石神社がある。7月の例祭には、華やかな船屋台が出る。

48 大矢金太夫の屋敷跡 C-4

佐久城落城の際、城より津々崎の徳川方の陣する大明神山まで、遠矢を射て高名をあげた大矢金太夫の屋敷跡である。

49 法幢院 C-4

曹洞宗宿蘆寺の末寺。寛正3年（1462）開基開山は慶受和尚である。境内の阿弥陀堂は、明治の初年、大崎西平より移したもので、奉安する木造阿弥陀如来坐像は、鎌倉期のもので硅石の割石が使用されている。出土品については、勾玉、直刀・須恵器などが出土したと伝えられている。

駒場

57 慈眼寺庚申堂 市指定 D-3

慈眼寺は曹洞宗金剛寺の末寺。本尊に青面金剛童子を祀るので通称庚申堂といわれる。現在無住。その庚申堂は明治初年火災にあい全焼した後、佐久米海岸にあった阿弥陀堂を購入移築したといわれ、内陣・外陣・向拝のある、古い建築様式をもっている。また、その格天井には、渡辺崋山の高弟福田半香、郷土の画家石川晶斎や、長坂蘆水、縣棕林などの華麗な花鳥画、慈眼寺庚申堂天井板絵（市指定）が画かれている。12年毎の未年に開帳される。

58 安形伊賀守屋敷跡 D-3

本坂

38 伝橘逸勢墓 市指定 A-3

平安初期の承和9年(842)三筆の一人橘逸勢は、伊豆に流される途中、遠州板築駅で病没したといわれている。逸勢をひそかに追従した娘の妙は、墓畔に庵を結び尼となり父の冥福を祈った。嘉祥3年(850)、京に帰葬を許されると、遺骨を掘り出して代わりに鏡を埋めて去ったなどと伝えられており、境内には、逸勢の墓、妙沖尼の至考をたたえる旌考碑と筆塚などがある。

39 本坂峠 A-3

静岡県と愛知県の境が本坂峠。標高325m。姫街道では一番の高さを持つ最難所で、峠付近には鏡岩、椿の原生林、茶屋跡等がある。

40 本坂一里塚跡 市指定 B-2

江戸日本橋より72里目(約288km)の一里塚。姫街道で現存する貴重な一里塚である。塚の前に数基の馬頭観音が建てられている。

鶴代

41 隣海院 C-3

曹洞宗金剛寺の末寺。鎌倉期の仏像を安置する。境内に幕末の国学者夏目千尋の墓と、明治前期三遠農学舎に所属して活躍した夏目喜平の碑がある。

42 浅間山とまんさく群落 県指定 C-3

万葉集巻十四東歌“花散らふこの向つ峯の乎那の峯の洲につくまで君が齢もがも”の乎那の峯は、この山ではないかといわれている。犬養孝筆による歌碑が建っている。中腹には、珍しい高山性植物まんさく群落(県指定天然記念物)や、三ヶ日桜の原木がある。

上尾奈

43 王瀧不動 A-3

よぼし岳の麓にあり、瀧のかたわら不動明王が祀られている。

44 玉洞寺のサザンカ 市指定 B-3

玉洞寺の境内にあり幹周1.4m、樹高6.6mで樹齢が約300年と推定される(市指定天然記念物)。

下尾奈

45 猪鼻湖神社 C-4

猪鼻湖口に、猪の鼻の形をした奇岩があり、その岩上の祠は式内社猪鼻湖神社である。

46 本城山 C-4

摩訶耶千頭峯城の南方前線基地であったと考えられ、空堀や井戸の跡などがある。

する木造阿弥陀如来坐像は、鎌倉期のものといわれる。参道のちかくに寺倉貝塚がある。

50 宇塚山貝塚 C-4

宇塚山北麓4ヶ所に貝塚が散在する。石斧土器など出土。時代は比較的新しいものである。

都筑

51 佐久城跡 市指定 D-3

貞和4年(1348)、浜名清政が築城して鵜代の館よりここに移った。永禄12年(1569)徳川家康の遠州侵攻に抵抗して、大矢政頼が降伏開城するまで、約210年間当地方を支配した浜名氏の本拠であった。天正11年(1583)、徳川氏は、より交通に便利な野地に野地城を築城して移り、この城を廃城とした。空堀・馬出し郭・井戸などが残っている。別名を浜名城ともいう。

52 太幸寺 D-3

曹洞宗宿蘆寺の末寺。幕末当時の住職道榮は、自ら荒地を開拓し、またはじめて甘藷・西瓜の栽培を導入して、この地方に普及した産業功労者である。彼が寺子(生徒)とともに、愛宕山の行者岩に彫刻した十三仏は、明治初期、太幸寺前庭に移され、安置された。

53 広福寺 D-3

曹洞宗宿蘆寺の末寺。文明2年(1470)宿蘆寺二世養年受信の開基。本尊大日如来と薬師堂に安置する薬師如来は、鎌倉期のものと考えられる。

54 野地城跡 D-3

現在は、土塁及び堀が若干のこされており、天正11年(1583)徳川家康の家臣、本多信勝、上村庄右衛門の両名が奉行となって構築し、完成後は信勝が城代となった。以来96年間続き、延宝8年(1680)廃城となった。別名を宮崎城ともいう。

55 都筑神社 D-3

寛永元年(1624)鎮座といわれる愛宕神社に、西平にあった熱田神社と野地城内にあった神明宮とを合併して、昭和45年(1970)都筑神社となったものである。山頂には磐座とみられる遺跡がある。

56 愛宕平古墳 市指定 E-3

都筑神社の山麓愛宕平は、もと火塚(古墳)が群集していたので、火塚平ともいわれていたが、今は円墳一基をのこすのみである。高さ約6m、頂上より南麓まで約10m、西麓まで約7mの横穴式円墳で、南端の天井石一枚が失われているため、そこより玄室内に入ることができる。玄室は長さ4.1m、巾2.7m、高さ1.7m、羨道は長さおよそ2.8m、巾0.75m、高さ1.1m

57 安形伊賀守屋敷跡 D-3

現在1m程の周囲を石積みにした塚の上に苔むした墓碑がたっている。土地の人は、ここを伊賀堂とよび、駒場縣氏の祖安形伊賀守正道の屋敷跡であると伝えられている。

大谷

59 旗本大谷近藤家陣屋跡と代官屋敷 D-3

大谷の十郎鍛冶にある大谷近藤家陣屋跡は、現在みかん園となり、わずかに古井戸と池庭の跡がのこっている。寛永6年(1629)初代用行が、ここに陣屋を設け、大野喜兵衛頼忠を給人としてから、天保13年(1842)7代用譽が現在の浜北区内野に移すまで、ここが三ヶ日町北部一帯支配の中心であった。

陣屋南方の姫街道沿いに、江戸にいる主君に代って事実上領内を支配した大野氏の屋敷があり、現在も子孫が居住している。土地の人々は大野氏をお代官様、その屋敷を代官屋敷と今もよんでいる。

60 旧高栖寺跡 市指定 E-2

臨済宗奥山方広寺の末寺。建武元年(1334)京都東福寺の高僧、佛海禪師が大谷の東北、釜中山に創立したが、天文12年(1543)三代玉庵禪師が現在地に移した。玉庵禪師は、永正16年(1519)郷里の備後国(広島県福山市)より、藺草の苗を持ち帰り、当地に畳表産業を導入普及した功労者である。寺の背後に佛海、玉庵両禪師の墓がある。前庭に、千体地蔵を安置した十王堂がある。

61 引佐峠 E-3

三ヶ日町大谷より細江町岩根へ越える峠。姫街道の昔の姿をよくのこしており、峠の途中に石投岩、象なき坂などがある。標高200m。奥浜名自然歩道と姫街道がここで交差する。

62 大谷一里塚跡 E-3

江戸日本橋より70里目(約280km)の一里塚跡に石碑がある。

佐久米

63 佐久米経塚 市指定 E-3

経文を書いた、こぶし大の石が多数埋められており、その上に石碑がたててある。三ヶ日町内には都筑および上尾奈にもこうした経塚が遺されている。

協力 三ヶ日町郷土を語る会・
浜松市北区三ヶ日地域自治センター
発行 三ヶ日町観光協会
静岡県浜松市北区三ヶ日町三ヶ日500-21
TEL.053-524-1124 〒431-1414

2010.10.10000